

令和7年度 第2回金沢市DX会議 発言要旨

【日時】 令和7年8月19日（火）14:00～15:30

【場所】 金沢市役所第一本庁舎 405 会議室

○報告事項 デジタル化に関する職員アンケートについて

●生成AIの利用について、どういうことに使われたか、データはあるか。

→アイデア出し、文章の要約、関数・プログラムコードの作成が多い。

●「紙による確認がないと、事務誤りが増えるから」という回答があるが、実際に誤りはあったのか。また、防止策はとっているか。

→従来から、決裁過程で上司がチェックしているが、紙をスキャンしただけ、といったデジタル化の事例もあり、画面でのチェックのみではケアレスミスが起こりうる、という考えの元の回答と思われる。資料内で論理チェックが行えるような方法であれば検算等も行え、誤りの防止につながると考えられる。

●生成AIを活用しない職員は、なぜ活用していないのか。

→アンケートでは「必要性を感じない」という意見があった。活用方法を伝えていくことが課題。また、生成AIが業務で使えることを知らない職員も一定数いた。

○議題 「次期DXアクションプラン（案）」の検討

《福島委員の提言に対して》

●地域で使えるデータが整備されていないのは、そのとおり。どうすれば整備できるか。

→課題から出発することも大事。やりたいことのために必要なデータを、市職員と共有し、データの有無、オープンデータ化の可否などを考えていく。

●データ活用について、データを使われる側には抵抗感がある。市のこういった施策でプライバシー等が守られるかも伝えと、市民の安心が高まると思う。

●金沢市は庁内DXが進んでいる一方、庁内のデータ発掘はまだ完全ではないと考える。他自治体では、階層別研修にデータ利活用研修を組み込み、データの発掘と分類を行っている。オープンデータ可、情報公開請求対応なら可、庁内・課内限定など、データスペクトラムの中に自課のデータを分類することを繰り返し、多くのデータが峻別できている。金沢市も同様の研修導入を検討してはどうか。

《中沢委員の提言に対して》

- 金沢工業大学での取組は、学際的専修科目ということは、選択授業なのか。
→そうである。いくつかの学科でチームを作り、企業・自治体の方にも入っていただいてプロジェクトを推進していきたい。
- クロスデザインラボの取組の中では、地域の他大学との協働は考えているか。金沢大学や北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）でも類似の取組がある。
→考えているが、単位が関わることもあり、課内でやる部分・課外でやる部分を整理する必要がある。先行する海外の大学との連携を密にと考えているが、県内大学の先生方とも連携していきたい。

《宮内委員の提言に対して》

- 若手の人材育成はとても大事。この活動は学校外の活動か。
→そうである。かなり意識もレベルも高い中高生が多い。
- うまく地元に根付くよう、地域への就職なども連携できるとよい。
- 人材育成については、無料のプログラムをどう活用するかも大事。
- 地域にある程度関心を持つのは、子育てを始めてからの30代、40代以降が多く、シビックテックは年齢層が高めになりがち。若い世代の考え方がもっと入るとよい。

《提言全体に対して》

- 今までは決まった構造の中で取り組んできたものが、アメーバ式に、多様な参加者が自発的なコミュニティを作って何かを生み出す形になっていく。そういった仕組み作りや自発性を、市が今行っている取組の中で、さらに強化できる可能性を感じた。
- 地域の課題は市職員になかなか伝わってこない。データ管理や分類は大変な作業だが、今やっている事業からデータベース化などできるとよい。
- 地域との協働等に市の職員が個人として加わる場合に、どのような立場で行動すればよいのか難しさを感じる場合もある。
- 市職員が個人として参加する場合に、そこを「発信する場」ではなく、地域課題を「引き出す場」として参加すると、市職員も参加のハードルが下がるのではないか。

《事務局資料に対して》

- 「だれとでも」、具体的に何をどう進めるのかは難しい。今後検討できるとよい。
- 災害に対する「安心できるまちづくり」の要素が入るとよいのでは。発災してからでは遅いため、平時にどれだけ備えられるか、の視点を入れた方がよい。
→未来共創計画には、実は能登半島地震後に、災害に関する内容が追加されている。